



北潟湖の自然再生に向けて

—北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう—

北潟湖の特徴

北潟湖は、あわら市の北部に位置し、面積2.14平方キロメートル、周囲14.0キロメートル、平均水深2.5メートルで、県内では水月湖、三方湖に次いで3番目に大きな湖です。越前加賀海岸国定公園に含まれるほか、日本の重要湿地500（平成13年）、生物多様性保全上重要な里地里山（平成27年）に選定されるなど、北潟湖が持つ景観の美しさや自然そのものの豊かさ、人と自然の関わりが生み出した自然の姿の重要性が高く評価されています。

北潟湖は、生息する魚類が豊富で、それらを餌とする多くのカモ類やタカ類の越冬地となっています。さらに、北潟湖とその周辺の谷は、多くの希少なトンボ類や水生昆虫が生息するホットスポットでもあります。

しかし、北潟湖では、湖内にはブルーギル、湖辺にはアカミミガメやウシガエル、オオキンケイギクなどの侵略的な外来種が生息・生育するなど、北潟湖と周辺地域の生態系を大きく変えてしまっただけでなく、北潟湖の漁業資源を脅かしています。

自然再生の対象となる区域

北潟湖自然再生全体構想の対象区域は、北潟湖および北潟湖に流入する河川の周辺地域としています。対象となる区域は、北潟湖の集水域や、地域のつながりなどを考慮しながら、北潟湖の周辺地域を広く含めて設定しています。



▶自然再生対象区域

水鳥の宝庫 北潟湖



▶①ヨシガモ、②オジロワシ、③コハクチョウ

希少なトンボが生息する湖周辺の谷



▶①オグマサナエ、②トラフトンボ、③アオヤンマ

貴重な自然の宝庫“赤尾湿地”



▶①ヨシが広がる赤尾湿地、②コウホネ、③オオマルバノホロシ

北潟湖自然再生

「5つの柱」と「17の目標」

方針1. 水環境の検討と管理の推進

- 目標1 泳ぎ遊びたくなる水環境
- 目標2 透明度の高い“美しい”水環境
- 目標3 臭いや色が気にならない湖水
- 目標4 水管理の仕組みづくりと継続

方針2. 生物多様性の保全・再生

- 目標5 オジロワシが舞う生態系
- 目標6 多様な生物を育む水辺移行帯
- 目標7 北潟湖と谷津での絶滅危惧種の保全・再生
- 目標8 外来種の積極的な駆除と意識向上

方針3. 湖の伝統文化・産業の保全・再生

- 目標9 継続された漁業
- 目標10 魚介類の安定した漁獲

方針4. 湖の新たな活用と地域経済への貢献

- 目標11 エコ・グリーンツアー
- 目標12 観光地としての利用
- 目標13 北潟湖国有林の利活用推進

方針5. 環境教育（学習）の普及と推進方針

- 目標14 北潟湖の現状をよりよく知る
- 目標15 環境教育活動の参加経験
- 目標16 自然・歴史・文化を活用した環境学習
- 目標17 アクセスしやすく整備された情報

北潟湖の自然再生

に向けて

北潟湖の美しい環境を取り戻し、本来持つ素晴らしい自然を再生させ、北潟湖と周辺地域で自然と共生する豊かな地域づくりを目指すため、平成30年11月24日に全国で26番目となる自然再生推進法に基づく法定協議会が、北潟湖で発足しました。

この協議会では、平成31年3月に、北潟湖自然再生全体構想を策定し、今後は、この全体構想を基礎として、自然再生事業実施計画の策定を行っていきます。

同時に、さまざまな自然再生事業に取り組み、北潟湖の自然再生にむけて活動を行っていきます。

問合せ

北潟湖自然再生協議会事務局
(生活環境課内)
☎73,8018



▲昭和30～40年代の北潟湖の風景

北潟湖自然再生協議会

プロフィール

北潟湖自然再生協議会は、「北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう」をキャッチフレーズに、自然や文化、歴史、産業振興、環境教育の推進をみんなの力を合わせて実施する法定協議会です。

設立 平成30年11月24日
構成 市民、各種団体、研究者、行政など

北潟湖自然再生協議会ができるまで

- 平成25年 北潟湖自然再生連絡会 設置
- 平成26年 北潟湖の自然再生に関する協議会 設置
- 平成30年 北潟湖自然再生協議会 発足
- 平成30年 北潟湖自然再生協議会 設立

※北潟湖の自然再生に関する協議会：北潟湖自然再生協議会の前身となる協議会。主な活動は、年3～6回の会議、年3～6回の運営委員会会議、アンケート調査、フォーラム開催、ニユースレター発行など。



掲載写真は、次の皆さんからご提供いただきました。
河田勝治、組頭五十夫、齊藤貞幸、田川武夫、竹嶋喜恵子、竹田直行、福田健（敬称略、五十音順）